

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1970101935		
法人名	社会福祉法人 やまなし勤労者福祉会		
事業所名	グループホームわがや		
所在地	甲府市若松町6-35		
自己評価作成日	平成26年11月26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成27年2月12日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①介護の基本理念とし「見守り」「待つ介護」「恥をかかせない」「鍵をかけない」など意思を尊重した支援をしている。 ②地域の商店を利用したり、地域の行事や施設の行事にお誘いし交流している。 ③毎月の職場会議やスタッフ会議を重ね入居者さんのモニタリングを主に業務の改善など話し合い共有し検討している。 ④施設全体で事例検討会や学習会に参加し事例も提供している。外部の研修には積極的に参加している。 ⑤学生実習受け入れや笑顔ふれあいサポーター(甲府市)など外部のかたの受け入れをしている。 ⑥食事は入居者さんの希望を取り入れたり入居者さんの力を引き出しながら、一緒に片付けも行い、時々外食にも出かけている。 ⑦職員は日常生活の中で気が付いたことを報告し、共有、分析し危険予測の向上と介護の質を高める努力をしている。 ⑧ご家族と話し合いながら、最期までその人らしく過せる支援を行っている。
--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

甲府市南部に位置し、太田町公園、中央郵便局やマンション、古くからの商店などが周辺にあり、遊亀通りに面した六階建ての三階が事業所となっている。事業所は三か所の自治会と接しており、すべての自治会に加入して地域の行事に参加したり買い物に行くなど、地域と密着した生活を送っている。また、事業所の敷地内に屋敷神さんが祭っており毎日利用者がお水をあげたり、毎月1日と15日には、油揚げを供えてお参りをしている。入職時には事業所の教育の一環として身体拘束の疑似体験を研修し、全職員が身体的、精神的苦痛を理解し実践に繋げている。管理者と職員は利用者一人ひとりに寄り添い、住み慣れた町で安心して生活が送れるよう日々の支援に努めている。
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名 グループホーム わがや

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( 9人 ② 東 )	ユニット名( 6人 ① 西 )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者さんが地域の中で元気にいつまでも暮らせるように、買い物、地域行事、ご近所付き合いを行い、安心して暮らせるようにする。また入居者さん個人個人の思いに添う介護を提供し、その人らしく暮らせるように支援する。	入居者さんが地域の中で元気にいつまでも暮らせるように、買い物、地域行事、ご近所付き合いを行い、安心して暮らせるようにする。また入居者さん個人個人の思いに添う介護を提供し、その人らしく暮らせるように支援する。	「見守り」「待つ介護」「恥をかかせない」「鍵をかけない」を基本理念として、スタッフ会議、職場会議で日々のケアを振り返り、ケアが理念に反映されているか管理者と職員は話し合いを行い、意識づけをして日々の支援につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	ユニット①と同様に自治会に加入し地域の防災訓練やお祭り、清掃作業に参加している。回覧板を届けたり、施設独自の新聞を配布し、また地域の商店を日常利用し交流している。	3つの自治会に参加し地域の防災訓練やお祭り、清掃作業に参加している。回覧板を届けたり、施設独自の新聞を配布し、また地域の商店を日常利用し交流している。	事業所と接している3つの自治会に加入している。地域の夏祭りに参加したり、よっちゃばれ踊りの人達が事業所に来てくれた際には、地域の人達が見に来たり、事業所での行事に使うテント等を自治会から借りるなど、相互に交流を図って地域の一人として交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の組織の会合で認知症理解のための講師をしたり、地域交流時に理解を得られるように買い物時等で話をしたり、地域で認知症介護でお困りの方の相談、対応方法など施設体験も行っている。	地域の組織の会合で認知症理解のための講師をしたり、地域交流時に理解を得られるように買い物時等で話をしたり、地域で認知症介護でお困りの方の相談、対応方法など施設体験も行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回(奇数月)に開催し、入居者さんへのサービス提供の状況を、「わがやだより」や写真なども交え報告している。またインシデントを報告し、意見や要望が言いやすい環境を作り、参加者に助言やアドバイスを頂き実践に取り入れている。	2ヶ月に1回(奇数月)に開催し、入居者さんへのサービス提供の状況を、「わがやだより」や写真なども交え報告している。またインシデントを報告し、意見や要望が言いやすい環境を作り、参加者に助言やアドバイスを頂き実践に取り入れている。	2ヶ月に1回開催している会議には、3つの自治会長、民生委員、地域の人達や利用者、家族、包括センターの職員が出席している。2ヶ月間のインシデントの報告や日々の取り組みを家族等に伝えている。また、認知症加算の説明をし理解を得るなどしている。参加者からの助言やアドバイスも聞き実践に取り入れている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ユニット①と同様に運営会議やグループワークに参加している。	運営推進会議に包括支援センターより参加して頂いている。市役所には議事録を送付し報告をしている。包括の職員の方には行政や介護保険について学ぶ機会にもなっている。市の主催のグループワークに参加し意見交換を行った。	運営推進会議の議事録を送付して、事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝え、協力関係を築けるよう努めている。また、市主催の研修会のグループワークに参加して、決められたテーマに沿った意見交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	言葉1つも拘束であることを職員全員が理解し、拘束を行わない介護を実践している。入職時には教育の一環として身体拘束の疑似体験研修を行っている。施設が3階にあり、エレベーター使用しているが移動したいときは一緒に行動している。	言葉1つも拘束であることを職員全員が理解し、拘束を行わない介護を実践している。入職時には教育の一環として、身体拘束の疑似体験研修を行っている。施設が3階にあり、エレベーター使用しているが移動したいときは一緒に行動している。	研修会や入職時、身体拘束疑似体験を経験して、身体的、精神的苦痛を理解し、身体拘束をしないケアの実践に努めている。スピーチロックは、職員間で注意し合える環境が出来ている。3階の出入り口はエレベーターを使用している為、利用者が前にいて外に行きたい時は、職員が付き添い見守って一緒に行動している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者さんの身体的、精神的変化は記録に残し、ヒヤリハットやインシデント報告から分析し、分析・再発防止、予測も踏まえ話し合いをしている。介護安全委員会を通じ新聞も発行し掲示したり、職員に発信し注意もしている。	入居者さんの身体的、精神的変化は記録に残し、ヒヤリハットやインシデント報告から分析し、分析・再発防止、予測も踏まえ話し合いをしている。介護安全委員会を通じ新聞も発行し掲示したり、職員に発信し注意もしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を利用する方もおり、制度の学習会を行っている。	後見人制度を利用する方もおり、制度の学習会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( 9人 ② 東 )	ユニット名( 6人 ① 西 )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ユニット①と全く一緒の方法で行っている。契約時に重要事項、利用契約、運営規定、看取りの指針、利用料金等の説明を行い、理解、納得して頂いた上で契約に至っている。途中疑問があれば連絡を頂き説明し文章等で連絡、説明している。	契約時に重要事項、利用契約、運営規定、看取りの指針、利用料金等の説明を行い、理解、納得して頂いた上で契約に至っている。疑問に思うことがあれば、その都度説明し、加算等で変更がある時は運営推進会議や文章にし説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議などで、ご家族や地域の方々より意見や要望を気軽に話す機会を設けたり、入居者さんは毎日期会で個人の意見や要望を言う機会を設けたり、日々かかわる中で、気軽に話せるような雰囲気を作り、支援に繋げている。	面会時や運営推進会議などで、ご家族や地域の方々より意見や要望を気軽に話す機会を設けたり、入居者さんは毎日期会で個人の意見や要望を言う機会を設けたり、日々かかわる中で、気軽に話せるような雰囲気を作り、支援に繋げている。	運営推進会議や面接時に常に問いかけ、何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意している。防災訓練を家族と共に実施した際、家族から「非常階段に手すりがあった方が利用者が安全に避難できる」との意見が出され、検討して手すりを取り付けて安全の確保をした。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者も主任もユニット①と同じなので、考え方は一緒の方法で行っている。	毎月必要時にスタッフ会議を設け、月2回の職場会議を設け意見交換を行っているが、日常の中でも要望や意見はその都度聞き、支援などに生かしている。管理者は職員に相談することで、意見を引き出す機会も作っている。	スタッフ会議や職場会議で職員の意見、要望を聞くよう心掛けている。また、日頃からコミュニケーションを図ることを心がけて、意見が言いやすいように問いかけたり、話し易い機会を作っている。行事の企画等職員の提案を取り入れて反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	教育、研修制度が確立しているため、段階ごとや年齢層にあわせた就労環境を作り、働きやすい職場を作っている。職場での意見交換も積極的にし情報を共有している。給与など労働条件は組合を通じ要望している。	教育、研修制度が確立しているため、段階ごとや年齢層にあわせた就労環境を作り、働きやすい職場を作っている。職場での意見交換も積極的にし情報を共有している。給与など労働条件は組合を通じ要望している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修委員会が主体となり事例検討会やテーマ別の研修会を開催し実施している。キャリアアップ助成金を得て有期実習型訓練を実施した。形成事業や認知症研修など様々な研修に参加している。	研修委員会が主体となり事例検討会やテーマ別の研修会を開催し実施している。キャリアアップ助成金を得て有期実習型訓練を実施した。形成事業や認知症研修など様々な研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会に加入し、研修に参加している。また、甲府市の介護サービス事業者連絡協議会では、意見交換し困っている所の相談もお互いに話し、取り組みを確認したこともある。	GH協会に加入し、研修に参加している。また、甲府市の介護サービス事業者連絡協議会では、意見交換し困っている所の相談もお互いに話し、取り組みを確認したこともある。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しい環境に慣れて頂けるように、利用者さんからお話を伺い、入居に至るまでの生活を面談記録などから理解し、利用者さんの希望に添えるように、努力している。ご本人の不安軽減のためにお試し期間も行い、ご希望に添えるように計らった。	新しい環境に慣れて頂けるように、利用者さんからお話を伺い、入居に至るまでの生活を面談記録などから理解し、利用者さんの希望に添えるように、努力している。ご本人の不安軽減のためにお試し期間も行い、ご希望に添えるように計らった。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ユニット①と同様の方法で行っている。ご家族から直接お話を伺い、今何にお困りなのか、直面しているのかを聞かせて頂いている。またわがやの生活をする中で要望も伺い、その都度連絡をとりながら関係作りをしている。	ご家族から直接お話を伺い、今何にお困りなのか、直面しているのかを聞かせて頂いている。またわがやの生活をする中で要望も伺い、その都度連絡をとりながら関係作りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込みから面談、自宅訪問や見学受け入れなど、またケアマネからの情報も得ながら、入居に至るまで入居者さんやご家族の状況を伺いながら、アセスメントを行い必要時間関係機関と連携をとり、支援させて頂いている。	申し込みから面談、自宅訪問や見学受け入れなど、またケアマネからの情報も得ながら、入居に至るまで入居者さんやご家族の状況を伺いながら、アセスメントを行い必要時間関係機関と連携をとり、支援させて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(9人 ② 東)	ユニット名(6人 ① 西)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居に至るに当り、生活暦を聞かせて頂いたり、生活する中でまた面会時、ご家族からお話を伺い、入居者さんの得意分野を教えて頂き、感謝や労いの言葉を伝え、一緒に時間を共有し、関係づくりをしている。	入居に至るに当り、生活暦を聞かせて頂いたり、生活する中でまた面会時、ご家族からお話を伺い、入居者さんの得意分野を教えて頂き、感謝や労いの言葉を伝え、一緒に時間を共有し、関係づくりをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時はもちろん、生活の中で気づいたことはご家族に伝え、状況をお話する。そこからご家族や入居者さんも交え、考えて支援につなげている。外泊、外出時は特に同様の支援が出来るよう家族の方の理解も得ながら関係性を作っている。	面会時はもちろん、生活の中で気づいたことはご家族に伝え、状況をお話する。そこからご家族や入居者さんも交え、考えて支援につなげている。外泊、外出時は特に同様の支援が出来るよう家族の方の理解も得ながら関係性を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外泊をしたり、お墓参りや昔からの馴染みの場所に行ったり、近所を通ったりし、思い出せるようなきっかけづくりに努めたり、面会へ働きかけている。	外泊をしたり、お墓参りや昔からの馴染みの場所に行ったり、近所を通ったりし、思い出せるようなきっかけづくりに努めたり、面会へ働きかけている。	正月に外泊したり、毎週自宅へ外泊する利用者もいる。また家族対応で美容院やお墓詣りに行ったり、外国にいる親戚から国際電話がかかってきて話をする利用者、年賀状や暑中見舞いを書いて出す方等、人と場所の関係が途切れないような支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者さん全員で話し合う時間を毎日作っている。入居者さんの生活暦や、家族構成を理解し、きっかけ作り等職員が橋渡しをしたり、間に入り、支えあうような働きかけを行っている。	入居者さん全員で話し合う時間を毎日作っている。生活暦や、家族構成を理解し、きっかけ作り等職員が橋渡しをしたり、間に入り、支えあうような働きかけを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取り支援をさせて頂いた方は、度々来て下さりお話をする機会もあり、必要があれば相談ことも伺っている。契約が終了しても遊びに来られたり、体調のこと、支援サービス等の相談にのっている。	入居され、わがやの生活をする事により、生活感覚が戻り、自宅に退所されるケースもあった。デイに通い、わがやに立ち寄りなど利用者さん、ご家族との関係を継続し支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の朝会で要望やその時の気持ちを伺い、支援につなげている。またアセスメントや毎月のモニタリング、日々の記録や言動を理解し、入居者さん本位になるように支援している。	毎日の朝会で要望やその時の気持ちを伺い、支援につなげている。またアセスメントや毎月のモニタリング、日々の記録や言動を理解し、入居者さん本位になるように支援している。	毎日の朝会や日々のかかわりの中で声をかけて、希望、意向の把握につとめている。把握困難な利用者には話をする言葉の強さ、弱さ、顔の表情を見ながら無理強いないで、利用者の気持ちに寄り添い本人本位の支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に情報収集させていただくが、日々生活する中で入居時に知りえなかった事、発見につながる事など職員間で情報を共有し把握に努めている。	入居前に情報収集させていただくが、日々生活する中で入居時に知りえなかった事、発見につながる事など職員間で情報を共有し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の記録や、健康管理表は毎日必ず職員は、把握できるようにと目を通して。毎日朝夕で申し送りを行い、確認もしている。	日常生活の記録や、健康管理表は毎日必ず職員は、把握できるようにと目を通して。毎日朝夕で申し送りを行い、確認もしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面接記録や、日常生活、記録の中からわがや独自のアセスメント表を作成し、入居者さんの言葉(思い)を汲み取り、ご家族の思いや気付きも取り入れ優先順位を検討し計画をかけている。	面接記録や、日常生活、記録の中からわがや独自のアセスメント表を作成し、入居者さんの言葉(思い)を汲み取り、ご家族の思いや気付きも取り入れ優先順位を検討し計画をかけている。	入居時に本人、家族の意向を聞いて暫定の介護計画を作成する。利用者担当職員がアセスメントして記録に残しモニタリング、評価して6か月で見直しをしている。状態に変化が生じた場合には、アセスメントを取り直して計画の変更をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録の中で変化や、入居者さんの言動を記録に残し、関わりのポイントを職員間で確認したりミニカンファをしたり、朝夕の申し送りで共有しながら介護の必要性や見直しを行い支援している。	日々の記録の中で変化や、入居者さんの言動を記録に残し、関わりのポイントを職員間で確認したりミニカンファをしたり、朝夕の申し送りで共有しながら介護の必要性や見直しを行い支援している。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( 9人 ② 東 )	ユニット名( 6人 ① 西 )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力医療機関の医師や主治医、看護師、リハビリ、福祉用具、マッサージ導入など入居者さんにとり何が必要かを家族も含め、考え支援している。靴1足でもフィッティングし、足に合ったものを購入できるようにサービスを利用している。	協力医療機関の医師や主治医、看護師、リハビリ、福祉用具、マッサージ導入など入居者さんにとり何が必要かを家族も含め、考え支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	傾聴ボランティアや地域の消防団、消防署の協力を得ての防災訓練、また地域の防災訓練、河川清掃に参加している。地域の文化祭にもできる役割の中で、作品を作り上げ出品し、参加し、地域と交流を図った。	傾聴ボランティアや地域の消防団、消防署の協力を得ての防災訓練、また地域の防災訓練、河川清掃に参加している。地域の文化祭にもできる役割の中で、作品を作り上げ出品し、参加し、地域と交流を図った。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医を基本に受診している。受診時は最近の様子を文書にして状況を伝えるようにしている。必要な時は電話で指示をもらうこともある。透析者の病院と連絡ノートで状況も伝えている。	今までのかかりつけ医を基本に受診している。受診時は最近の様子を文書にして状況を伝えるようにしている。必要な時は電話で指示をもらうこともある。緊急時には電話で相談している。	本人、家族の希望するかかりつけ医となっている。基本的には家族同行の受診となっているが、緊急時は職員が対応している。また、家族対応が困難な利用者は、家族が契約しているペルバーが代行して受診対応をしている。受診結果は、家族等と共有が出来る	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関わりの中で「いつもと違う」ことは報告し早期発見、早期受診を行うようにしている。何事も早めの報告を心がけ、判断を仰いでいる。骨折による退院後は訪問看護を利用した。連絡ノートで情報の共有を行った。	日々の関わりの中で「いつもと違う」ことは報告し早期発見、早期受診を行うようにしている。何事も早めの報告を心がけ、判断を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病状確認と今後の治療内容は、ご家族と連絡をとりあい、確認しながら退院に向けた話し合いを持つ関係性を作っている。カンファレンスは必ず開催している。	病状確認と今後の治療内容は、ご家族と連絡をとりあい、確認しながら退院に向けた話し合いを持つ関係性を作っている。カンファレンスは必ず開催している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の看取りの指針説明や介護計画書作成時、更新時に入居者さんやご家族の気持ちや意思を確認する。状況をその都度確認しながら話し合いの中で方針を決めているが、入居の時点で看取りを希望している方もいる。	入居時の看取りの指針説明や介護計画書作成時、更新時に入居者さんやご家族の気持ちや意思を確認する。状況をその都度確認しながら話し合いの中で方針を決めている。看取り希望の方もおられる。	重度化した場合の看取りに関する指針の整備があり、入居時から話し合いの機会を作り本人、家族等の意向を踏まえて意思を確認している。職員は職場会議で話し合い、看取りに関するイメージが出来ている。本人の意志を確認しながら、可能な限り対応できるよう医療連携をして支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日々の生活の中で体調の変化に応じた、マニュアルを作成している。AEDを設置し、学習会にも取り組み、いざと言うとき実行できるよう努めている。	日々の生活の中で体調の変化に応じた、マニュアルを作成している。AEDを設置し、学習会にも取り組み、いざと言うとき実行できるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設独自の訓練や消防署の直接指導による訓練も日中及び夜間想定も実施している。地域の防災訓練にも参加し、また、災害に備え災害グッズを整えたり、設備を理解したり、地域との連携が特に重要と運営会議でも常に議題にし意識を高めている。	重度の入居者さんの避難では、おんぶひもを使ったり、シーツで包む等試している。地域の消防団長さんや自治会長さん、民生委員さんはいずれも協力体制が得られ連絡網訓練を行っている。運営推進会議で階段に手すり取り付けのご意見を頂き早速取り付けた。	毎月1回、避難訓練を実施している。昼夜を通じて訓練し利用者の一人ひとりの状態を踏まえて、避難誘導が出来る様全職員が身につけている。訓練は記録に残している。、防火扉が解るよう蛍光テープを貼ったり、非常階段に手すりを付けて避難誘導が安全に行えるよう備えた。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩として入居者さんの人格や気持ちに配慮し、尊重した対応を心掛けている。恥を欠かせないことや、耳元で排泄や入浴誘導をしており、出来ない事を他の入居者さんに知られないように、声掛けには工夫している。	人生の大先輩として入居者さんの人格や気持ちに配慮し、尊重した対応を心掛けている。恥を欠かせないことや、耳元で排泄や入浴誘導をしており、出来ない事を他の入居者さんに知られないように、声掛けには工夫している。	利用者のその人らしい尊厳ある姿を大切に、恥をかかせない配慮をしている。トイレ誘導の声かけも隠語を使い、また居室に入る時はノックしてから入る、トイレの戸を閉めるなど、プライバシーを損ねない対応を心がけている。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( 9人 ② 東 )	ユニット名( 6人 ① 西 )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎朝、入居者さんの希望要望を伺ったり、汲み取ったりする時間をつくり働きかけている。生活の中で「外に行きたい」「お寿司が食べたい」「歯磨き粉が無いから買いに行きたい」など、思いに添えるように支援している。	毎朝、入居者さんの希望要望を伺ったり、汲み取ったりする時間をつくり働きかけている。生活の中で「外に行きたい」「相撲・野球が見たい」「歌が歌いたい」「体操したい」「絵を描きたい」など、思いに添えるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まりはなく毎朝、体調や天気、思いや希望によって支援している。	毎朝、体調や天気、思いや希望によって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族と一緒に美容院に行ったり、長髪の方は髪結い支援や、男性は髭そりが毎日出来るように支援している。洋服もできるだけご自分で選択できるようにお手伝いしたり、朝、入浴後など整容、外出時のお化粧等支援している。	ご家族と一緒に美容院に行ったり、男性は髭そりが毎日出来るように支援している。洋服もできるだけご自分で選択できるようにお手伝いしたり、朝、入浴後など整容、外出時のお化粧など支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝会で何が食べたいか伺って献立を書いて壁に掲示し、皆さんが見えるようにした。入居者さんの出来る事を見極め、野菜切りやお米とぎ、テーブル拭きやお茶いれ、下膳も出来る時に食器をまとめたり、下げたり、洗い、拭き等全般に行っていたらいてる。	朝会で何が食べたいか伺って献立を書いて壁に掲示し、皆さんが見えるようにした。入居者さんの出来る事を見極め、野菜切りやお米とぎ、テーブル拭きやお茶いれ、下膳も出来る時に食器をまとめたり、下げたり、洗い、拭き等全般に行っていたらいてる。	その日のメニューは利用者と相談しながら決めている。野菜、お米は近くのお店が届けてくれる。日用品の足りないものは利用者と一緒に買い物に行っている。利用者の個々の力を活かしながらお米とぎ、野菜切り、食器拭き等行っている。また、利用者と職員は同じテーブルを囲んで会話をしながら食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の様子や健康チェック表を把握し記録に残し、水分はこまめに、飲みたいもの、飲める物を提供したり、食事の内容、形態を工夫したりしている。	日々の様子や健康チェック表を把握し記録に残し、水分はこまめに、飲みたいもの、飲める物を提供したり、食事の内容、形態を工夫したりしている。必要に応じてはトロミを利用することもある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、出来るところは入居者さんが行い、出来ないところや、磨き残しはお手伝いしている。夜間義歯は預かり管理している。自分の歯で食事が取れるように歯科往診につなげ、支援している。	毎食後口腔ケアを行い、出来るところは入居者さんが行い、出来ないところや、磨き残しはお手伝いしている。夜間義歯は預かり管理している。自分の歯で食事が取れるように歯科往診につなげ、支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者さんの毎排泄パターン表をつけ誘導し、時間や排泄内容を確認する中で分析し、トイレで排泄出来るような支援につなげ、パット利用を減らすようにしている。日中はできるだけ綿パンツで過ごして頂いている。	入居者さんの毎排泄パターン表をつけ誘導し、時間や排泄内容を確認する中で分析し、トイレで排泄出来るような支援につなげ、パット利用を減らすようにしている。日中はできるだけ綿パンツで過ごして頂いている。	排泄チェック表で利用者毎に把握して、トイレでの排泄支援をして、リハビリパンツやパットを減らすようにしている。入居前にパットの使用を拒否して失禁していた利用者が、職員の毎日の支援で自らパットを使用するようになり、自立に向けた支援に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食品や起床時の冷水、牛乳や乳製品、センナ茶など、排便が促せるようにしている。座位を保つことの大切さや体を動かす、自然排便ができるように支援している。	繊維質の多い食品や起床時の冷水、牛乳や乳製品、センナ茶など、排便が促せるようにしている。座位を保つことの大切さや体を動かす、自然排便ができるように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	順番は決まっていないが、希望や体調を確認し、入浴していただいている。個浴で好みの湯加減でゆっくり入っていただき、職員と話す機会とも鳴り、楽しまれている。	順番は決まっていないが、希望や体調を確認し、入浴していただいている。個浴で好みの湯加減でゆっくり入っていただき、職員と話す機会とも鳴り、楽しまれている。	毎日、午後からの入浴となっている。週に3回～4回入浴している。浴槽は個浴で利用者にあわせた用具を活用し、本人の好みのお湯加減、座ってゆっくり入れるよう、浴槽に椅子を入れる等の工夫をしている。また入浴後利用者が化粧水・乳液をつけている。ゆずや菖蒲など入れて香りを楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者さんの生活習慣や体調に合わせた支援をしている。休まれたり、リネン、寝具の洗濯や布団干しを行いよく休んで頂けるように支援している。	入居者さんの生活習慣や体調に合わせた支援をしている。と休まれたり、リネン、寝具の洗濯や布団干しを行いよく休んで頂けるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( 9人 ② 東 )	ユニット名( 6人 ① 西 )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者さん個々の薬局から出される説明書は必ず読み、内容を理解するようにしている。薬セットから、日にちセットなど必ず2人体制で、飲みこむまで確認している。薬が増えたときは、食欲や様子を観察し変化あるときは主治医に情報提供している。	入居者さん個々の薬局から出される説明書は必ず読み、内容を理解するようにしている。薬セットから、日にちセットなど必ず2人体制で、飲みこむまで確認している。薬が増えたときは、食欲や様子を観察し変化あるときは主治医に情報提供している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者さんの出来る事、その日の体調にあわせ、外出や食事づくり、趣味、歌、体操などを含めた支援を行っている。	入居者さんの出来る事、その日の体調にあわせ、外出や食事づくり、趣味、歌、体操などを含めた支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎朝入居者さんが意見や要望を伝える機会を作り要望を伺い、優先的に行う。日常的な買い物散歩、回覧版まわし、わかまつ新聞配りは行っている。わがやの外出企画は楽しみの一つとなっているので、ご家族と一緒にに行けるように、楽しめるようにと支援している。	毎朝入居者さんが意見や要望を伝える機会を作り要望を伺い、優先的に行う。日常的な買い物散歩、回覧版まわし、わかまつ新聞配りは行っている。わがやの外出企画は楽しみの一つとなっているので、ご家族と一緒にに行けるように、楽しめるようにと支援している。	利用者からその日の希望を聞いている。散歩や買い物、前の畑で野菜作り、毎日洗うパジャマの洗濯干し、布団干しなど日常的に戸外に出る機会を多く持っている。また年間予定でわがやの外出企画があり、利用者の楽しみとなっている。また、外食に出掛け積極的な外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には金銭の預かりをしていない。しかし、お小遣いとして、財布を持つ方は入居者さんの買い物支援として繋げている。	基本的には金銭の預かりをしていない。しかし、お小遣いとして、財布を持つ方は入居者さんの買い物支援として繋げている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いなど大切な人に入居者さん自身が書き送り、返事も楽しみのひとつになっている。国際電話のやりとりもあり、最近の様子を話す機会となり、楽しみのひとつとなっていた。	年賀状や暑中見舞いなど大切な人に入居者さん自身が書き送り、返事も楽しみのひとつになっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は仕切り戸はあるが、自由に行き来でき、窓から光が入るようにしている。換気や室温、乾燥には十分注意を払っている。声や足音には配慮し、入居者さんに分かりやすい言葉で表示し、心地よく過ごせるように支援している。	共有の空間は仕切り戸はあるが、自由に行き来でき、窓から光が入るようにしている。換気や室温、乾燥には十分注意を払っている。声や足音には配慮し、入居者さんに分かりやすい言葉で表示し、心地よく過ごせるように支援している。	2ユニットの共用空間は仕切りはあるが、自由に行き来することができる。利用者が多くの時間を過ごす場所には、テレビやソファが置かれている。浴室、トイレは広々として清潔感があり、対面式のキッチンからは調理する匂いや音を感じることができる。室内は季節感のある飾りがされ、飾り過ぎない暮らしの場を整えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	決まった席はあるが、ソファに座ったり、ユニットを自由に行き来して、行きたい所など、入居者さん自身が過ごしたいように支援している。	決まった席はあるが、ソファに座ったり、ユニットを自由に行き来して、行きたい所など、入居者さん自身が過ごしたいように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具や寝具、小物などを持ってきて頂き、入居者さん自身が安心して生活できるように、また、身体の状態に合わせた居室作りを、ご家族と考え工夫している。	入居時に使い慣れた家具や寝具、小物などを持ってきて頂き、入居者さん自身が安心して生活できるように、また、身体の状態に合わせた居室作りを、ご家族と考え工夫している。	押し入れ、エアコン、カーテンが備え付けである。ペットの希望者はリースで使用し、布団を使っている利用者もいる。テレビ、ペットの写真、ぬいぐるみ、使い慣れた椅子や机が持ち込まれ、その人らしく居心地のよい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室、廊下など手すりがつてあり、浴室も出入浴がご自身で出来るだけ出来るようになっており、所々に椅子も置き、安全に生活動作にあわせた、すべり止めや、予防の為にセンサーマットも利用している。	トイレや浴室、廊下など手すりがつてあり、浴室も出入浴がご自身で出来るだけ出来るようになっており、所々に椅子も置き、安全に生活動作にあわせた、すべり止めや、予防の為にセンサーマットも利用している。		